



子ども総合センターだより

明日もしあわせ通信 (第52号) 令和2年10月号



空が青いから 白をえらんだのです

「くも」と題したたった1行のこの詩。奈良少年刑務所の受刑者が書いたものです。ここでは、童話作家の寮美千子(りょう・みちこ)氏が、心の荒れ地に水を注ぎ、耕し、彼らに本来の人間らしさを取り戻させようと、「社会性涵養プログラム」に詩の創作を取り入れています。ほとんど詩など書いたこともない子どもたち。うまく書こうという作為もありません。当たり前の感情を当たり前に出せないでいた、そっと心の奥にしまっていた葛藤、悔恨、優しさ…がこぼれ落ちてくるだけです。

この詩の作者のA君は普段はものを言わない子。この詩を読み上げたとき、堰を切ったように語りだしました。「お母さんは病院で、『つらいことがあったら空を見て。そこに私がいるから。』と、ぼくに言ってくれました。それが最後の言葉でした。お父さ

んは体の弱いお母さんをいつも殴っていました。ぼく、小さかったから何もできなくて…。」

A君がそう言うと、教室の仲間が次々と手を挙げ、「この詩がA君の親孝行や。」「A君のお母さんは真っ白でふわふわなんや。」と語りだし、「ぼくもお母さんがいないけど、空を見たら会えるような気がした。」と、おいおいと泣きだす子までいたそうです。こんな子たちがなぜ犯罪者になってしまったのでしょうか。

犯罪を引き起こしてしまう原因はさまざま。その子自身の性質だけでなく、家庭環境や社会環境が複雑に絡まっています。溜め込まずに思いを吐き出せていたら、理解してくれる人がいたら、被害者をつくることもなく、犯罪者にならずにすんだのかもしれない。

一人の人間として、心に刺さる詩でした。

寮美千子・編

『空が青いから白をえらんだのです

—奈良少年刑務所詩集』より (N.T)



適応指導教室「はばたき」 夢をもっていますか？



ある記事を読んでいると、皆さんもよく知っているマザー・テレサの次の言葉が目に入ってきました。



思考に気をつけなさい。それはいつか、言葉になるから。
言葉に気をつけなさい。それはいつか、行動になるから。
行動に気をつけなさい。それはいつか、習慣になるから。
習慣に気をつけなさい。それはいつか、性格になるから。
性格に気をつけなさい。それはいつか、運命になるから。

「人生は意識したことを引き寄せる」「人生は日頃使っている言葉通りになる」とも言われます。はばたき教室の子どもたちにも「どんな人になりたいのか家族団らんの時に話題に出して話し合ってください。」と宿題を出しました。

子どもたちの中には、父親や母親、兄弟のそれぞれの気持ちや思いを聞き、「自分もそろそろ少し頑張ってみようかなと思った。」と話してくれた人もいました。

自分の部屋で過ごすことが多くなっている最近では、家族で話すことは貴重な経験です。家族と話をする中で、子どもたちにも心の変化が見られました。子どもたちに志を高く持ってほしいと願います。

思い出の中の人

新型コロナウイルスに感染しないようにできるだけ自粛生活を心掛けている。ゆっくり過ごす時間ができ、人や物に対する向き合い方が少し変化したように思う。思いを巡らす時間も増えた。昔の出来事や知人をふと思い出したりすることがある。

その一人、M先生。いつも穏やかでにこにこしていた。怒ったところを見たことがない。「おかげさま」と「ありがとう」が口癖だった。そして、今、自分が生きていること、食事ができていること、元気であること、働いていること、すべてのことは誰かのおかげでできている。人は一人では何もできない。自分は生きているのではなく、生かされているんだと言っていた。つらいこともあったはずなのに、そんな表情を一度も見たことがない。人には優しく、自分には厳しかった。

あの頃は、M先生の年齢になれば、そんな思いになるのかも漠然と思い、心底尊敬していた。もう30年以上前のことだ。当時のM先生の年齢を超えた今、少しは理解できるように思うが、深さが違うような気がする。いつまでたっても大先輩には追いつけない。

3年前に旅立たれ、今は思い出の中にだけ生きておられる。M先生なら、今のコロナ禍をどうご覧になるだろう。

「コロナ感染症はね、・・・。」優しい語り口が思い浮かぶが、その後が続かない。(W)

発達支援巡回相談

「大好き」の魔法

イヤイヤ期ぐらいからお家でも園でも扱いに困っていたA君が、学年が上がってすっかり落ち着いて生活しているのに先日気づき、担任の先生に聞いてみました。

お母さんに、1日の終わりにA君大好きと言ってギュツとしてあげてください、とお願いしたのです。とのことでした。

家にいることが多くなり、注意することや気になることが増えたと思いますが、お母さんは、1日の終わりに「(今日は～だったね。)A君大好き。」と言ってギュツと抱きしめることを実行してくださったのでした。

本人の成長もあるのですが、アドバイスをすぐに実行してくださったお母さん、それを言ってあげられる先生に拍手を送りたいです。

また、「大好き」という言葉には魔法のような力があるのかもしれないね。(A)

《センター長のつぶやき》

「1枚の絵」

我が家の玄関から廊下を歩いて部屋に入ると、1枚の絵が壁にかかっている。碧と白を基調とした港に浮かぶ船で、ざわついた心を落ち着かせてくれる爽やかな油絵である。

ちょうど30年前、4人の尊敬する先輩から、そのうちのお一人が描かれた絵を、お祝いいただいたものである。4人の方は、東温市、松山市、伊予市にお住まいで、30年経過した今でも毎年「余人会」を開催し、強い絆で結ばれている。

4人は教員の大先輩で「このような先生(人)になりたい」と願い、自らを律し、今もその背中を追い続けている。

人生の「師」を持つことは、幸せなことである。高い山を目指し、苦しい日々があったとしても、この絵の前に立つと、歩む道が見え勇気が湧く、そんな気がする。(DOIG)



伊予市子ども総合センター
伊予市尾崎3-1
総合保健福祉センター2階
(電話) 089-989-6226